



Cisco CloudCenter リリース 4.8.0.x リリース ノート

初回更新日:2017 年 7 月 19 日

シスコシステムズ合同会社

〒 107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先:シスココンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS 含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェアライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコとこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証と権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco およびシスコ ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は <http://www.cisco.com/go/trademarks> [英語] を参照してください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有権に帰属します。The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

4.8.0

- リリース日
- インストール
- アップグレード手順
- アーキテクチャ
- クラウド
- アプリケーションとサービス
- CloudCenter の管理
- 管理およびガバナンス
- セキュリティ
- サポート終了通知
- 廃止予定
- CCM UI
- API
- 統合
- 資料
- 既知の問題
- 解決済みの問題

リリース日

CloudCenter 4.8.0: 2017 年 5 月 15 日

CloudCenter 4.8.0.1: 2017 年 7 月 4 日

更新:

- 2017 年 7 月 11 日 (ServiceNow の統合を追加: CloudCenter, v1.4)
- 2017 年 7 月 17 日 (CCM/CCO ログのダウンロード、4.8.0 の既知の問題を、4.8.0.1 の解決済みの問題のリストに追加)

インストール

CloudCenter 4.8.0x は、仮想アプライアンスとして利用可能です。詳細については、「[Virtual Appliance Overview](#)」を参照してください。

アップグレード手順

CloudCenter 4.6.0 以降のリリースのみ CloudCenter 4.8.0x にアップグレードすることができます。

CloudCenter 4.8.0x へのアップグレードの詳細については、「[Upgrade Overview](#)」を参照してください。

アーキテクチャ

- **モニタ**: モニタ コンポーネントは、現在必須の要件です。このコンポーネントをインストールせずにログ ファイルをダウンロードすることはできません。詳細については、「[Monitor \(Required\)](#)」を参照してください。
- **ワーカーのアップグレード**: 既存の導入の管理エージェント (ワーカー) をアップグレードできます。以前の CloudCenter リリースではこの機能はサポートされていませんでした。
- **リポジトリ アプライアンス**: Repo 仮想アプライアンスには、複数のコンポーネントの仮想アプライアンス (専用バンドル ストア、専用パッケージ ストア、および専用 Docker レジストリ) が含まれています。Repo アプライアンスをダウンロードすると、これらのファイルが利用可能になり、必要な場合にプロパティを構成できます。詳細については、「[Repo \(Conditional\)](#)」を参照してください。
- **カスタム証明書**:
 - 有効な CloudCenter 4.8.0 では、CCM サーバの証明書を生成および更新することができます。
 - さらに、各導入の CCO、モニタ、Guacamole、ESB のコンポーネントの証明書を更新できます。
 - 必要な場合、各コンポーネントの構成ウィザード (*_config.wizard) を使用して、証明書を生成または更新します。
 - 詳細については、「[Certificate Authentication](#)」を参照してください。
- **フェデレーテッド CCM インフラストラクチャ**:
 - CloudCenter プラットフォームでは、情報共有を可能にし、複雑さを軽減し、プライベート クラウド インフラストラクチャ内での管理の柔軟性を向上させるためにフェデレーテッド CCM 管理インフラストラクチャをサポートしています。
 - 詳細については、「[Federated CCM Management](#)」を参照してください。

クラウド

- **VMware:**
 - VMware vCenter 6.5 はサポート対象クラウドのリストに追加されます。詳細については、「[Datacenters and Private Clouds](#)」を参照してください。
- **SoftLayer:**
 - ダラス (DAL05、DAL06、DAL10、DAL12、DAL13)、ヒューストン (HOU02)、シアトル (SEA01)、ワシントン DC (WDC01、WDC04、WDC06、WDC07)、モントリオール (MON01)、トロント (TOR01)、アムステルダム (AMS01、AMS03)、フランクフルト (FRA02)、ミラノ (MIL01)、オスロ (OSL01)、パリ (PAR01)、ロンドン (LON02)、チェンナイ (CHE01)、香港 (HKG02)、ソウル (SEO01)、シンガポール (SNG01)、東京 (TOK02)、シドニー (SYD01)、メルボルン (MEL01)、ケレタロ (MEX01) 地域は、サポート対象クラウドのリストに追加されます。
 - 詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
- **OpenStack:**
 - 有効な 4.8.0.1 では、OpenStack クラウドのための配置機能もサポートされます。
 - 詳細については、「[Resource Placement and Validation](#)」または「[Submit Job \(v2\)](#)」 > 「[Example 5](#)」を参照してください。
- **Google Cloud:**
 - 米国西部、米国東部、西ヨーロッパ、東アジア (台湾)、北東アジア太平洋 (日本、東京) 地域は、サポート対象クラウドのリストに追加されます。
 - 詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
- **Azure RM:**
 - カナダ東部、カナダ中央、韓国中央、韓国南部、米国西部 2、および米国中西部の地域は、サポート対象クラウドのリストに追加されます。詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
 - **Azure の管理対象ディスクのサポート:** CloudCenter 4.8.0.1 の前に、ストレージ アカウントを作成し、そのアカウントの下にあるインスタンスのストレージを作成できます。Azure の管理対象ディスク機能の導入に伴い、導入時に CloudCenter プラットフォームで 3 つの定義済みのディスク サイズのいずれかを選択できます。
 - プレミアム (管理対象)
 - 標準 (管理対象)
 - 管理対象外
 - 詳細については、「[Multiple Volumes](#)」 > 「[Azure Type Nuances](#)」を参照してください。
- **AWS:**
 - アジア太平洋 (ムンバイ)、EU (ロンドン) 地域は、サポート対象クラウドのリストに追加されます。
 - 詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
- **Alibaba:**
 - Alibaba の VM 命名の「[Callout Script](#)」を設定できます。
 - **インスタンスの命名戦略**を設定し、「[VM Name Config](#)」で説明されているような Alibaba の標準手順を使用することで、VM 命名コールアウトを識別できます。
 - 中国北部 3 (張家口市) 地域は、サポート対象クラウドのリストに追加されます。詳細については、「[Public Clouds](#)」を参照してください。
- **新しい画像**は、シスコ: アプリケーション VM (ワーカー) 画像によって提供されます。
 - 新しいワーカー画像は、別の種類の OS をサポートするために Google クラウドで利用可能です。
 - SoftLayer (BlueMix) のワーカー画像は、以前の CloudCenter リリースではプライベートでしたが、動的ブートストラップをサポートするためにパブリックになりました。
 - クラウドごとの完全なリストについては「[Base OS Images](#)」を参照してください。

アプリケーションとサービス

- vendor.properties ファイルではデフォルト enable.appstore.publishToPublic の設定が、False から True (enable.appstore.publishToPublic=true) に変更されています。これはテナントがデフォルトでマーケットプレイスにアプリケーションをパブリッシュできるようにするためです。
- CloudCenter 4.8.0 で導入された Suspend スクリプトは、Resume スクリプトの既存のフックに似ています。Suspend スクリプトは、ノードが中断されたときにトリガーされます。追加情報については、「[Deployment Lifecycle Scripts](#)」を参照してください。
- アプリケーションまたはサービスをモデル化するときに、type リストのパラメータの複数選択オプションを有効にできます。この追加により、ユーザは値のリストからパラメータの複数の値を選択することが可能になります。
- 同様に、webservice を呼び出すことによって、それらのオプションを取得するパラメータの複数の値を選択できます。
- CloudCenter 4.8.0.1 には、導入時にエンドユーザにサービス パラメータが表示されることを許可するための改善が含まれています。ユーザは、導入パラメータとしてパラメータを定義し、それらを設定できます。これらの設定は、パラメータが導入時に表示、編集、および省略可能である必要がある場合に制御します。追加情報については、「[Deployment Parameters](#)」を参照してください。

CloudCenter の管理

- **仮想マシン管理:**
 - データセンターには、CloudCenter からは起動されない、数千の仮想マシン (VM) を含めることができます。これらの VM は、ブラウンフィールド VM と呼ばれます。CloudCenter 4.8.0 以降では、VM 管理機能を使用してブラウンフィールド VM を CloudCenter 管理下にするオプションがあります。

- この機能では、CloudCenter プラットフォームに VM をインポートして CCM から直接管理することができます。
- AgentLite* と呼ばれる軽量エージェントは、CloudCenter にインポートされている VM にインストールすることができます。このエージェントは、ブラウザー VM の CloudCenter プラットフォームのアクションを有効にします。
- 詳細については、「VM Management」を参照してください。
- カスタムアクションの管理:**
 - CloudCenter 4.8.0 以前に「Policies」タブで構成可能であったカスタムアクションは、現在はアクション ライブラリ関数に統合されました。
 - アクション ライブラリは、VM 管理のアクションの作成、管理、および実行を有効にすることによって CloudCenter プラットフォームの機能を拡張する非同期フレームワークです。このフレームワークにより、ユーザはアクションを定義し、それらを VM、導入、またはアプリケーション プロファイルなどの別の CloudCenter リソース上で実行できます。
 - アクション ライブラリは、Day 2 操作を VM アクションとして定義し、データセンターの VM 上でそれらを実行する機能を提供します。
 - 詳細については、「Actions Library」を参照してください。

管理およびガバナンス

- セキュリティ プロファイルの削除: これは変更です!**
 - 有効な CloudCenter 4.8 で、セキュリティ プロファイルを削除しようとすると、CloudCenter プラットフォームはすべての設定済みクラウドの上のファイアウォール ルールを削除します。
 - 必ず必要なクラウドの上 CCO を機能させ、使用されていないクラウド リージョンを削除してください。
 - 詳細については、「Security Profiles」を参照してください。
- レポート:**
 - 「Usage Details Report」は、現在「Application Deployments Report」に名前が変更されました。これは変更です!
 - 「Running VM History Report」は、高度なフィルタリング機能を含むように拡張されました。
 - 高度なフィルタリングオプションは、後からすばやくアクセスできるように、フィルタされたリストへのショートカットを直接追加するために役立ちます。詳細については、「Reports Overview」を参照してください。

セキュリティ

- アクセス コントロール リスト (ACL): フェデレーテッド CCM と仮想マシン上**
 - アクション:** 権限はユーザが実行できる特定のアクションを定義します。カスタム アクションの権限を制御できます。詳細については、「Permission Control」 > 「Custom Actions」を参照してください。
 - 仮想マシン:** デフォルトでは、インポートされた VM は他のユーザに共有および表示されません。他のユーザへの許可および可視性は、VM のインポート時にテナント管理者の招待に基づいて派生します。
 - フェデレーテッド CCM:** ユーザは、次に基づく操作に制限されています。
 - 下位 CCM でそれらに割り当てられた権限コントロール (フェデレーテッド CCM 権限) レベル。
 - 下位の CCM 上の親 CCM によって許可されている操作。

サポート終了通知

詳細については、「End of Life Notices」を参照してください。

非推奨メソッド

CloudCenter 4.8.0 では、次の機能が非推奨になります。

- IE10 の「Microsoft 社のサポート終了の発表」の後、IE11 から Internet Explorer の CloudCenter プラットフォームのサポートが開始されます。追加情報については、「Browser Compatibility」を参照してください。
- マネージド VM インベントリレポートとアンマネージド インベントリレポートは廃止され、CCM UI の [仮想マシン (Virtual Machines)] タブに置き換えられます。
- VMware NSX 機能は CloudCenter でサポートされなくなり、ドキュメントからのすべての参照が削除されます。
- Cisco では NTT (マネージド プライベート) クラウドはサポートされなくなり、ドキュメントからのすべての参照が削除されます。
- CloudCenter 管理エージェントの自動アップグレードが削除されます。代わりに、実行中の VM 上のエージェントをアップグレードするために、CloudCenter プラットフォームの動作としてサポートされます。詳細については、「VM Management」を参照してください。

CCM UI

- 新規 UI:**
 - [CloudCenter ナビゲーション (CloudCenter Navigation)] メニューが変更され、管理タスクは現在タスクの長いリストに対応するため独自の領域に表示されます!
 - 新しいサーバの [詳細 (Details)] ページは、VM に利用可能であり、オーケストレーション タスクおよび操作の履歴のログが含まれます。
 - 検索とフィルタ機能は拡張ユーザ エクスペリエンスを提供するために拡張されています。

- 共通アイコンの詳細については、「UI Behavior」を参照してください
- フィルタリングのお気に入り、検索文字列、期間の考慮事項、およびカスタムフィルタに基づく詳細については、「VM Management」を参照してください。
- 現在ダッシュボードの詳細には次が含まれます。
 - インポートされた VM の情報 (詳細については、「VM Management」を参照してください)
 - クラウドとアプリケーションによる **マイ データ** の情報
 - 詳細については「The Dashboard」を参照してください。
- **新しいメニュー項目** :
 - **導入** : 現在「Deployments」と呼ばれる別のメニュー項目が表示されます。
 - **導入環境** : 現在「Environments」と呼ばれる別のメニュー項目が表示されます。
 - **仮想マシン** : この新しいメニュー項目では、新しい VM 管理機能とともにマネージド VM (CloudCenter マネージド VM へのユーザおよび管理者アクセス) とアンマネージド VM (クラウドで発見された VM への管理者アクセス) の一覧を提供します。詳細については、「Virtual Machine Management」を参照してください。現在、高度なフィルタを使用して最も重要な VM を識別することは簡単です。
 - **アクション ライブラリ** : この新しいメニュー項目は、クラウド オペレーティング システム、VM の状態、ユーザ権限、設定済みのアクションに基づいて VM 管理動作を設定する機能を提供します。ストレージ ディスクの追加や削除のような再設定操作を実行するためにクラウド コンソールにアクセスする必要はもうありません。VM 上で実行するために、スクリプト、コマンド、UCSD ワークフロー、Puppet、Chef、Ansible のような複数のアクション タイプを定義できます。[プレビュー (Preview)] ボタンは、アクションを使用するためにリリースする前に表示することができます。詳細については、「Actions Library」を参照してください。
 - **詳細** : CloudCenter プラットフォームのアクセス頻度の低い領域は、[詳細 (More)] セクションの下にグループ化されます。
- **ブラウザの互換性** : シスコでは、ブラウザごとに 2 つの最新バージョンをサポートしています。互換性のあるブラウザの一覧については、「Browser Compatibility」を参照してください。
- **ローカリゼーション** : 有効な CloudCenter 4.8.0 では、英語以外にフランス語、日本語、中国語 (簡体字) の 3 つの言語を使用できます。詳細については、「UI Behavior」を参照してください。

API

CloudCenter 4.6.0 では、必要に応じて v2 API が導入されます。新しい API を初めて導入した場合、その API は引き続き v1 を使用します。v1 がまだその API の第 1 バージョンであるからです。次の一覧では、CloudCenter 4.8.0 の新規 API と更新された API を区別します。

- **新規 API** :
 - **アクション管理** :
 - Create Action Execution
 - Create a New Action
 - View Actions
 - View Resource Actions
 - Update Action
 - Delete Action
 - **VM 管理** :
 - View Managed VMs
 - View Managed and Unmanaged VMs
 - Download CSV Reports
 - View VM Details
 - Import VM to CloudCenter
 - **お気に入り管理 (VM とジョブ)** :
 - Create Favorite
 - View Favorite
 - Delete Favorite
 - **管理** :
- **更新された API** :
 - **ジョブ管理** :
 - View Jobs (v2) API は、`showAllJobs` クエリ パラメータを含み、デフォルトで 50 のレコードを一覧表示するように拡張されています。
 - Submit Job (v2) API は、ジョブ ペイロードに `nodeIds` (カンマ区切りのリスト) が含まれるように拡張されています。これにより既存の VM をアプリケーションのプロファイルにマッピングできます。
 - **テナント管理** :
 - Perform Tenant Actions は対応する変更で例 1 を更新するため、テナントにクラウドを追加することができます。
 - 次の API が強化され、ペイロードで指定しない場合に `有効なパラメータ` が `True` の既定値を持つようになりました。
 - Create Cloud Region
 - Update Cloud Region
 - v2 API のサイズ属性には、現在デフォルトで 50 のレコードが一覧表示されます。詳細については、「CloudCenter API Overview」を参照してください。
- **追加の注意事項** :
 - CSV 形式でレポートをダウンロードする v1Report 管理 API は、CloudCenter 4.8 では機能しません。API のユーザは、同じ機能の v2 Report Management API を利用できます。
 - View Unmanaged VM Inventory Report API は廃止されました。代わりに、View Managed and Unmanaged VMs API を使用します。これは変更です!
 - View Managed VM Inventory Report API は廃止されました。代わりに、View Managed VMs API を使用します。これは変更です!

統合

- **SAML**: CloudCenter 4.8.0 では、[ログアウト URL (Logout URL)] フィールドで企業によって構成されている場合に、グローバル ログアウトの代わりにカスタム ログアウト ページにユーザをリダイレクトする SAML 設定をサポートしています。詳細については、「[SAML SSO](#)」を参照してください。
- **ACI**: NIC のネットワーク タイプとして新しい EPG を選択した場合、このテナントまたは共通のテナントから既存のコントラクトを選択する選択肢があります。選択したテナントからコントラクト インターフェイス (インポートされたコントラクト) を選択することもできます。CloudCenter プラットフォームは、新しく作成された EPG を設定してこれらのコントラクトを使用します。詳細については、「[ACI](#)」 > 「[Using Extensions](#)」を参照してください。
- **ServiceNow**: 統合: CloudCenter、v1.4 は、次の ServiceNow のリリースで利用可能です (2017 年 7 月 11 日のリリース ノートに追加)。
 - ServiceNow、Istanbul
 - ServiceNow、Helsinki
 詳細については、「[Release Notes for v1.4](#)」と「[Install and Configure v1.4](#)」を参照してください。

資料

このセクションでは、CloudCenter 4.8.0 で実装されたドキュメントの変更を一覧表示します。

- 新しいリンク アンド フィールドは、「[CloudCenter Documentation 4.8](#)」Web サイトの Cisco のブランド要件に準拠し、次の変更に対処しています。
 - 表示キャンバスを超えるコンテナの使用 (キャンバス内のコンテンツの適切なラッピング)。この問題は、特に API ページで、コードの行がページの幅を超える場合に表示されます。
 - 現在メニュー項目のクリックのたびにに行われるページの更新が限定され、ページの読み込み時間を削減します。
 - 表示ページの目次 (TOC) の項目をクリックした場合、固定ページに表示タイトルが表示されます。以前は、タイトルは可視表示されませんでした。
 - 左側のペインで選択した項目を表示するスクロール位置が維持されます。これによりドキュメント構造のページのレベルを表示するためにスクロールする必要がありません。
 - CliQr ロゴは、メイン フレームの Cisco のロゴに置き換えられます。
 - [Docs.cliqr.com](#) URL は、すべての相互参照で [http://docs.cloudcenter.cisco.com](#) URL に置き換えられます。
 - CloudCenter CLI タブは、CLI オプションがサポートされなくなった CloudCenter のバージョンから削除されます。CLI タブは、CloudCenter 4.2 から 4.5 までのドキュメント スペースの左ペインに引き続き表示されます。
- CloudCenter コンポーネントをセットアップする最も簡単な方法は、仮想アプライアンスを使用することです。CloudCenter の顧客の大半は、CloudCenter のすべてのコンポーネントをセットアップするために仮想アプライアンスを使用します。シスコでは、CloudCenter のすべてのコンポーネントのための仮想アプライアンスを提供しています。**固有のインストール要件がある場合** (たとえば、カスタム OS イメージ)、[CloudCenter サポート チーム](#) にお問い合わせください。
- CloudCenter 4.8.0 の変更: このリリースのドキュメントの詳細については、この項で提供されるリンクを参照してください。
- 以下の項目は、CloudCenter 4.8.0.1 で実装されたドキュメントの変更を特定します。
 - [End of Life Notices](#) (新規追加)
 - [PostgreSQL Troubleshooting](#) (新規追加)
 - [Graceful PostgreSQL Reboot](#) (新規追加)
 - [The Dashboard](#) ([「Disabling Google Charts」](#)セクションが含まれていました)
 - [Callout Scripts](#) (コールアウト スクリプトを追加するプロセスが含まれていました)
 - [PostgreSQL Password](#) (パスワードの変更に関する情報が含まれていました)
 - [External Service](#) (外部サービス、外部ライフ サイクル アクション、および外部の初期化の外部の使用に対処するために情報を再編)
 - [Shibboleth SSO](#) 情報は CloudCenter 4.8.0 では無効になっています。このページは無効になっています。CloudCenter 4.8.0 の CloudCenter ドキュメントから削除されます

既知の問題

CloudCenter 4.8.0 には次のような既知の問題があります。

- VMware または OpenStack のクラウドでレガシー アプリケーションのベンチマークを実行する場合、データが読み込まれるまで待つ必要があります。データが読み込まれる前に任意の情報を入力した場合、[送信 (Submit)] ボタンが無効になります。
- **フェデレーテッド証明書管理**を設定するときは、カスタム証明書を使用する必要があります。ただし、証明書とフェデレーテッド CCM 管理を一度設定すると、親と下位の CCM の間のリンク通信が切断されるため証明書は変更できません。
- すでに VNC がインストールされているイメージから VM が起動される場合、CloudCenter アプリケーション VM のみと VNC セッションを確立できます。それ以外の場合、ユーザは、VNC を使用してそれらの VM に接続することはできず、接続エラーが表示されます。
- Google クラウドでは、動的ブートストラップは、管理者ユーザが存在しない限り Windows の既定のパブリック イメージで動作しません。その結果、クラウド開始 (ブートストラップ) スクリプトはこれらのインスタンスでは実行されません。
- CloudCenter プラットフォームは、ローカル タイム ゾーンではなく UTC でアプリケーションの導入をスケジュールします。別のタイム ゾーンでスケジュールする必要がある場合は、手動でタイム ゾーンを UTC に変換してからスケジュールを設定します。
- [仮想マシン (Virtual Machines)] タブの [稼働中の VM (Running VMs)] の数には、**エラー / 到達不能**状態を表示する VM が含まれています。この表示により、[VM の総数 (Total VM)] の値は、**管理対象仮想マシン** セクションの [稼働中の VM (Running VMs)] の値より小さくなります。詳細については、「[VM Management](#)」のページを参照してください
- CloudCenter 4.8.0 は、AgentLite 機能の Artifactory リポジトリの使用をサポートしていません。このためブラウザー VM で実行されるアクションの Artifactory リポジトリは使用できません。

- CCM/CCO ログをダウンロードしても、非 HA または非 HA スタンドアロン モードを使用している場合設計したとおりに動作しません。この問題を回避するには、`{component}.log.host.identifier` プロパティの値を次のようにして `{component}.log.haHostIdentifierList` を設定します。
 - **CCM**: CCM サーバ上の `/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF/server.properties` ファイルの `ccm.log.host.identifier` プロパティの値で `ccm.log.haHostIdentifierList` を設定します。
 - **CCO**: CCO サーバ上の `/usr/local/tomcat/webapps/ROOT/WEB-INF/gateway.properties` ファイルの `cco.log.host.identifier` プロパティの値で `cco.log.haHostIdentifierList` を設定します。
 - これらの変更には、CCM/CCO の再起動が必要です。
- CloudCenter 4.8.0 では、Ubuntu VM 上での Puppet アクションの実行はサポートされていません。
- VMware 上でアプリケーションを導入する際に、クラスタ内の複数のデータストアがある場合、重複する値を表示するデータストア クラスタのリストが表示されることがあります。その結果、そのデータストア クラスタの DRS が無効の場合に必要なデータストアを導入できない可能性があります。

CloudCenter 4.8.0.1 には次のような既知の問題があります。

- CloudCenter プラットフォームで `cliqruser` 権限で Python モジュールをインストールすることはできません。管理者は、CloudCenter プラットフォームに追加のソフトウェアをインストールするために `cliqruser` に明示的な権限を提供する必要があります。
- カスタム Azure RM イメージを起動するには、「[Multiple Volumes](#)」>「Azure Type Nuance」のセクションで説明されているような管理対象ストレージ オプションのいずれかを選択する必要があります。
- Azure Classic Image を導入して CloudCenter プラットフォームから Azure RM に VM を導入することはできません。まず Azure RM にそれらに移行する必要があります。詳細については、「[Configure Image IDs](#)」>「Azure RM Image ID」を参照してください。
- Docker ネットワークには、断続的なネットワーク障害がある場合があります。CloudCenter チームではこれらの障害シナリオを再現できていません。この問題を回避するには、Docker サービスを再起動します。
- CloudCenter 4.8.0 では、「[Cloud Configuration](#)」ページで Windows パスワードを生成する際に除外する必要がある特殊文字を設定できます。このフィールドは AWS、OpenStack、VMware、Azure Classic クラウドの構成で利用可能ですが、現在はその他のクラウド構成では使用できません。(2017 年 7 月 6 日に追加)

解決済みの問題

次の問題は、CloudCenter 4.8.0 で解決済み/対応済みです。

- **問題**: VM の数の計画クォータが枯渇して超えた場合でも VM が起動されます。
解決策: CloudCenter 4.8.0 では VM カウント動作が、ジョブを送信するときに階層の VM、実行中の VM、および合計の VM の最小数を含めるように変更されました。この修正は、VM 数が計画の制限より大きい場合に 2 度目の送信を行わないようにします。
- **問題**: ベンダーのテナント ID が変更されると、ベンダーの認証設定が SAML からデフォルトに変更されます。
解決策: CloudCenter 4.8.0 では、ベンダーのテナント ID が変更されると、ベンダーの認証設定の詳細で新しい ID が更新されます。
- **問題**: Windows ジョブの起動後に CloudCenter で生成されたパスワードを使用して Windows マシンにログインしようとすると、パスワードに特殊文字 (> または < など) が含まれている場合、ログインがパスワードの正しいレンダリングに失敗します。
解決策: Windows パスワードを表示するときの断続的な表示の問題は CloudCenter 4.5.2 で修正されていますが、CloudCenter 4.8.0 では、サービス階層の UI コードがこれらの特殊文字を含むパスワードを正確にレンダリングするための修正を提供します。
- **問題**: カスタム パラメータまたはグローバル パラメータの値に \$ 文字が含まれている場合、マクロでこのパラメータを使用することはできません。パラメータで特殊文字を使用して導入エラーを回避するには、これらの文字でエスケープシーケンスを使用します。
解決策: この問題は、CloudCenter 4.7.0 で最初に発見され、CloudCenter 4.8.0 にはエスケープシーケンスを使用せずに特殊文字を含むパラメータを送信できる修正が含まれています。
- **問題**: CloudCenter 管理エージェント ツール では、JAVA_HOME システム全体を更新する必要があります。
解決策: CloudCenter 管理エージェントは現在システム レベルの JAVA_HOME 設定を使用しないかまたは更新します。代わりに、そのワークスペースに独自の JRE があります。
- **問題**: ワーカー VM での Jetty の停止の問題。
解決策: `jetty` 停止プロセスが呼び出されたときにグレースフル シャットダウンし、これが失敗した場合は、そのプロセスが強制終了されます。
- **問題**: HA の設定時に MongoDB フォルダが見つからない場合、`cco_config_wizard` が MongoDB フォルダを作成する必要があります。
解決策: `cco_config_wizard` で 3 つすべての HA VM で MongoDB フォルダを作成し、権限を設定します。
- **問題**: CloudCenter 4.2x からアップグレードする際に Azure CCO の `/etc/profile` が Java 8 を指すように更新されません。
解決策: 最近のインストールでは `profile.properties` と `/etc/profile.d/jdk.sh` に Java 8 の設定があります。この問題は CloudCenter 4.2x に固有です。
- **問題**: Linux ベースの OS を Dimension Data クラウドに導入すると、必須パラメータ `administratorPassword` が見つからず、その結果導入が失敗します。
解決策: CloudCenter 4.8.0 ソフトウェアには現在、Dimension Data の導入を正常に完了することを可能にする不明な `administratorPassword` パラメータが含まれています。
- **問題**: 外部サービスが環境変数を使用すると、値がメモリでキャッシュされ、HA 設定での CCO 再起動の間保持されません。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、環境データを CCO 再起動の間保持するための修正が含まれています。
- **問題**: CloudCenter API のいくつかは、一貫性のない null 値を返します。
解決策: [リソースの URL (Resource URL)] フィールドでは、v1/テナント API の入れ子になったユーザ、グループ、および権限が正しく入力されません。v1/ジョブ API は廃止されていますが、同じ目的に v2/ジョブ API を使用できます。
- **問題**: `minClusterSize`、`numClusterNodes`、`numSeedNodes`、`maxClusterSize` のようなシステム パラメータ名で定義されたユーザ パラメータで N 階層アプリケーションをモデル化すると、ユーザ パラメータで指定したデフォルト値でこれらの値が上書きされます。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、システム パラメータと同じ名前を使用して階層またはグローバル レベルでユーザ パラメータを定義しようとすると、システムがエラーを発行することを保証するための修正が含まれています。

- **問題:** 無効のテナントがまだ sysadmin として CCM UI に表示されます。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、無効テナントがベンダー リストに表示されないようにする修正が含まれています。
- **問題:** URL の代わりにプレーン メタデータ ファイルを使用すると、SAML 認証設定を更新するたびに、データベースの同じ設定が正しく更新されません。URL が常に優先されます。
解決策: URL とフラット ファイルの両方を指定すると、URL に指定したとおりの優先順位が割り当てられます。フラット ファイルを使用する場合は、この URL に対応するフィールドを空にします。この変更が有効になるまで数分間かかる場合があります。
- **問題:** Nexus 1000v 分散型仮想スイッチ (DVS) を使用するポート グループへの VMware でのアプリケーション導入でエラーが発生します。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、Nexus 1000v DVS を使用するポート グループへの正常な導入を可能にする修正が含まれています。
- **問題:** ユーザによって起動されたジョブが終了し、CloudCenter プラットフォームからユーザが削除された後、AWS のセキュリティグループが削除されません。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、CloudCenter プラットフォームからユーザが削除されると、そのユーザに関係するセキュリティグループが AWS で削除されるようにする修正が含まれています。
- **問題:** トポロジ モデラーで指定されている場合でも、ELB をパブリックにするオプションが機能しません。
解決策: 外部の ELB 構成では、ロード バランスされている VM が存在する、同じ VPC 内のパブリック サブネットを選択する必要があります。この後 ELB はローカル VPC ネットワークを介して VM にアクセスでき、パブリック IP アドレスも持つことができます。
- **問題:** CCM UI にログインすると、クラウドの状態が正確に表示されます。別のページ(導入または管理者)に行くと、ダッシュボードに戻り、クラウドの状態に糸車が表示されます。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、クラウドの状態がユーザのナビゲーションに関係なく指定したとおりに表示されるようにする修正が含まれています。
- **問題:** いくつかのカテゴリに配置されているアプリケーション プロファイルについて CloudCenter に API 呼び出しを行うと、appCategories フィールドに入力されません。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、アプリケーション プロファイルを取得するために API 呼び出しを行うと appCategories フィールドが入力されるようにする修正が含まれています。
- **問題:** Dimension Data クラウド上に CloudCenter 4.7.0 がある VM を使用すると、CCO を登録できないことがあります。
解決策: Dimension Data クラウドでは、CCO サーバの IPv6 アドレスは CCO ノード メタデータをポストするために使用されていました。CloudCenter 4.8.0 ソフトウェアでは、CCO がノード メタデータの情報を待機しないようにする修正を提供しています。
- **問題:** テキストエリアおよびテキスト タイプの複数のサービス パラメータをサービス定義に追加すると、CCM UI を使用したときにサービスが保存されませんでした。
解決策: CloudCenter 4.8.0 には、テキストエリアおよびテキストタイプの複数のサービス パラメータが追加された場合にサービス定義を保存し、この機能が指定したとおりに動作するようにするための修正が含まれています。
- **問題:** CloudCenter プラットフォームからパスワードを取得する方法がない Windows 上の CloudCenter アカウントが作成されます。
解決策: 動的に生成されたパスワードは、ライフ サイクル アクションの一部として挿入され、外部スクリプト内での使用が可能です。追加情報については、「[Deployment Lifecycle Scripts](#)」を参照してください。

次の問題は、CloudCenter 4.8.0.1 で解決済み/対応済みです。

- **問題:** [サービス (Services)] ページのカスタム パラメータが毎回すべて表示されません。これは通常は単純なページの再読み込みによって修正されます。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、この問題に対処する修正が含まれており、カスタム パラメータは指定したとおりに表示されます。
- **問題:** `Get Job Details` API の解析された出力を使用してノード ID に基づいて任意の IP アドレスを取得することはできません。階層レベルのランタイム環境変数は、この API による、外部スクリプトが実行されている (スケーリングの目的のための) IP アドレスの取得に利用できない場合があります。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、スケーリング操作の完了時に現在のノードを識別するために外部の初期化スクリプト (Docker コンテナ) に以下の新しい環境変数が含まれています。
 - `cliqrNodeid`: 外部の初期化スクリプトを実行する VM のノード ID。
 - `cliqrNodeHostname`: 外部の初期化スクリプトを実行する VM のホスト名。
 - `cliqrNodePublicIp`: 外部の初期化スクリプトを実行する VM のパブリック IP。
 - `cliqrNodePrivateIp`: 外部の初期化スクリプトを実行する VM のプライベート IP。
 詳細については、「[CloudCenter-Defined Parameters](#)」を参照してください。
- **問題:** VMware 上でアプリケーションを導入する際に、クラスタ内の複数のデータストアがある場合、重複する値を表示するデータストア クラスタのリストが表示されることがあります。その結果、そのデータストア クラスタの DRS が無効の場合に必要なデータストアを導入できない可能性があります。
解決策: これは CloudCenter 4.8.0 で既知の問題です。CloudCenter 4.8.0.1 にはこの問題に対処するための修正が含まれます。CloudCenter プラットフォームが複数のデータストアを含むデータストア クラスタを検出したときに DRS が無効な場合は、(既存のデータストアの数に関係なく) 各データストア クラスタの正しいエントリが 1 つだけ表示されます。また、DRS が無効な場合でも各データストア クラスタのデータストアの正しい数が表示されます。
- **問題:** ユーザが VMware クラウドでカスタム Windows2012 イメージを展開すると、VM は正常に展開され、IPAM コールアウト ログに正しい情報が表示されます。しかし、初期化スクリプトが実行された後にゲスト OS のカスタマイズが発生するので、VM には IPAM コールアウト スクリプトの静的 IP が割り当てられたにもかかわらず、DHCP アドレスが割り当てられました。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、ノードの初期化フェーズ中に再起動後も IPAM のコールアウト スクリプトと同じ IP アドレスを正常に保持するための修正が含まれています。
- **問題:** バンドル スタアの設定は、HTTP URL を使用した場合に機能します。ただし、セキュアな HTTPS URL を使用してバンドル スタアを設定すると、「*インスタンスのブートストラップがタイムアウトしました (instance bootstrapping is timed out)*」というエラー メッセージが表示され設定がタイムアウトになります。

- 解決策:** CloudCenter 4.8.0.1 には、バンドル ストアの設定に使用されている HTTPS プロトコルのサポートが含まれています。HTTPS プロトコルを使用するには、「[Management Agent Worker \(Conditional\)](#)」を参照してください。
- **問題:** HA セットアップ プロセスを使用すると、データベースが世界に公開されます。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、パスワードを使用してデータベースを認証するための CloudCenter インストーラ プロセスの修正が含まれています。このメソッドを使用するには、手動で PostgreSQL と MongoDB サーバにパッチを適用することが必要な場合があります。パッチの手順については、[CloudCenter サポート](#)にお問い合わせください。詳細については、「[CCM and Database HA Upgrade](#)」 > 「[CloudCenter Version-Specific Patch](#)」と「[CCO HA Upgrade](#)」 > 「[CloudCenter Version-Specific Patch](#)」を参照してください。
 - **問題:** 導入のスケジュール中に、2 つの異なる導入に同じ名前を指定すると、システムは両方の導入に同じ名前を受け入れます。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、ノーマル導入とスケジュールされた導入の両方でこの問題に対処するための検証が含まれます。
 - **問題:** API と UI が役に立つエラー メッセージを実際に提供しません。たとえば、オプションと考えられるものを除外して、グループ内のユーザを更新するための呼び出しを行うと、空の場合は、フィールドが 500 応答を返します。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 では、グループのユーザの更新中のエラー メッセージに対処する修正を提供します。
 - **問題:** 一部のユーザに Web サービスの URL でマクロを使用する機能が必要です。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 の実装では、Web サービスの URL 内のユーザの外部 ID で置き換えられる `%userExternalId%` をマクロとして使用します (詳細については、「[CloudCenter-Defined Parameters](#)」 > 「[Other Macros - Input Parameters for Script](#)」を参照してください)。
 - **問題:** Web サービスのパラメータを設定する場合 («[Using Parameters](#)」 > 「[Granular Control for User-Defined Parameters](#)」を参照してください)、パラメータに
 - オプションのマークが付いている: ユーザに対して表示されるデフォルト値は、ユーザがそれを変更していない場合は提供されません。ユーザがデフォルト値を変更すると、値が渡されます。
 - 必須のマークが付いている: デフォルト値に基づいて有効な選択が行われたにもかかわらず、ユーザはまだ警告を受け取ります。**解決策:** CloudCenter 4.8.0.1 には、この問題の次の修正が含まれています。
 - オプションのマークが付いている: CloudCenter プラットフォームは、指定されたデフォルト値があれば受け入れます。
 - 必須のマークが付いている: デフォルト値を指定しない場合、ユーザは Web サービスによって返される値のいずれかを選択する必要があります。
 - **問題:** CloudCenter 導入のために VM を作成すると、多数のファイルがインストールの一部としてダウンロードされ、インストール/アップグレードが完了した後も残ります。これらのファイルはエンド ユーザに公開されないようにする必要があります。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、インストールまたはアップグレード後に不要なファイルをクリーン アップする修正が含まれています。ただし、アプリケーションとサービスのバンドルは引き続き残ります。
 - **問題:** VM の起動時に、VM 上でアクションを実行すると CloudCenter コンポーネント間で遅延 (30 ~ 60 秒) があります。これは特に、VM を作成する際、コンソールでそれを見ているときに見られ、CloudCenter の導入時に表示されるまでの時間です。ユーザは、ジョブが送信され、UI に何らかが表示されるまで長時間待機する必要があります。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、「ノードを起動中 (Node booting up.)」メッセージを表示する修正が含まれています。これは他のメッセージが表示されるまでの約 4 分間表示されます。
 - **問題:** Windows で生成されたパスワードが、プログラムの問題を引き起こす可能性がある特殊文字を含む文字のランダムな文字列です。プログラムで問題になる文字 (引用符および二重引用符、バック スラッシュなど) を除外すると、クラウド設定プロセスが軽くなります。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、Windows イメージを起動するときに削除する文字を指定できる拡張機能が含まれています。詳細については、「[Cloud Configuration](#)」を参照してください。
 - **問題:** 一部のユーザは、コールアウト スクリプト名ストラテジーを使用している場合に Azure クラウドで大文字を使用すると、導入を開始することができませんでした。
解決策: CloudCenter チームでは、Azure クラウドで大文字を使用した場合でも、導入を正常に開始することができました。
 - **問題:** 一部のユーザは、オプションとして Firewalld のインストーラのサポートを希望しています。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、新しい CloudCenter のインストールでデフォルトで Firewalld の構成を可能にする修正が含まれています。既存の顧客は、[CloudCenter サポート](#)にお問い合わせで移行手順を取得できます。
 - **問題:** ノード作成失敗での終了ロジックの結果として、失敗したジョブに VM が残ります。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、失敗したジョブの VM を終了する修正が含まれています。
 - **問題:** クラウドリージョンの削除に手動の DB クリーンアップが必要です。UI メッセージは汎用であり、環境削除の失敗を引き起こす特定のリソースは明確に示しません。このため、ユーザが取るべきアクションがわかりません。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、環境削除がアクティブな導入または有効化プロファイル、あるいはその両方に依存するかどうかをユーザに知らせるための、特定のメッセージを表示する修正が含まれています。また、[環境 (Environment)] タブにアクティブな導入の一覧が表示されます。エラー メッセージの横にある [詳細の表示 (View Details)] をクリックするとこれらの導入表示できます。有効化プロファイルは、メッセージにも表示されます。詳細については、「[Cloud Region Configuration](#)」を参照してください。
 - **問題:** スケール アップおよびスケール アクションは、VM が階層に追加または削除される情報を渡す必要があります (ロード バランサーなど)。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、スケーリング シナリオの環境変数を渡すための修正が含まれています。追加された環境変数の詳細については、「[CloudCenter-Defined Parameters](#)」 > 「[Environment Variables for N-Tier deployments](#)」を参照してください。
 - **問題:** CCO でジョブ情報が見つからない場合、終了保護の無効化に失敗します。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、警告/エラーをログに記録し、ジョブ情報が見つからない場合に終了保護を無効化するためのオプションをユーザに提供する修正が含まれています (導入は、ジョブ情報が CCO DB に追加された場合を示すようにはなっていません)。
 - **問題:** 外部サービスおよびリソースの配置または検証コールアウトの Docker コンテナの環境変数として CloudFamily を追加します。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、Docker コンテナに `Cloud_Setting_CloudFamily` 変数が含まれています。CloudCenter プラットフォームによって Docker コンテナで提供される環境変数の完全なリストについては、「[CloudCenter-Defined Parameters](#)」 > 「[Docker Container Environment Variables](#)」を参照してください。
 - **問題:** CCM/CCO ログをダウンロードしても、非 HA または非 HA スタンドアロン モードを使用している場合設計したとおりに動作しません。
解決策: CloudCenter 4.8.0.1 には、この問題に対処する修正プログラムが含まれています。CCM/CCO ログをダウンロードすると非 HA および非 HA スタンドアロン環境で設計されているように動作します。